

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- セミナー報告・理事会報告1
- 2005年洋書輸入統計〔後編〕2
- 洋書の世界5

セミナー報告

『ネット時代の情報交差点——公共図書館よりのメッセージ』

開催日時：平成18年3月23日（木）15:00～17:00

講師：常世田 良（日本図書館協会理事・事務局次長）

場所：飯田橋レインボービル

受講者：会員16名、非会員2名

【講演概要】

従来は与えられた課題、仕事をこなせば評価されたキヤッチアップ社会であったが、政府指導の下に企業、行政ばかりでなく個人も徐々に西欧型の「自己判断自己責任」を迫られつつある。この意味するものは「読書」が複数の資料を読み比べる「情報収集」型が増加し「売り手市場」から「買い手市場」への移行である。西欧では日本の7～8倍の予算を計上し正確な情報が公平に提供される「情報端末」としての図書館、云わば水道の蛇口と貯水池システムがかなり整備され「自己判断自己責任」というコンセプトが社会全体として成立しているのである。この点我が国はどうか、予算の削減、司書不足、地方分権政策による地方自治の困窮、また日本のマスコミのあり方、インターネット情

報の信頼性等々、「自己判断自己責任」型社会へのインフラが整っているとはとてもいえない状態である。このまま「自己判断自己責任」型社会へ移行すれば、とんでもない混乱を来たすのではないか。

【感想】

講師の勉強量の多さを痛感させられるほどにレベルの高い講演会と感じました。政府の諸政策を（公共）図書館側から見た意見ではあるが、教育産業に携わる我々としても何らかの活動の必要性を深く感じ取りました。

年度末でもあり、新年度向け教科書販売で多忙中の会員も多く受講者数が予想を下回りましたのでセミナー開催時期の反省点と致します。

広報委員会委員長 鈴木 仁／(株)雄松堂書店

理事会報告

日時：平成18年4月20日（木）16時～ 於協会事務所

1. 委員会報告

(1)総務委員会

2005年度の収支見込と2006年度の予算案（最終案）を提示し了承された。

また、収入の減少が予想されるので、新規事業を考える必要があるとの委員長見解が出された。

(2)広報委員会

今年度は3回のセミナーを行った。

(3)文化厚生委員会

5月27日（土）に72会ゴルフ、7月7日（金）に麻雀大会を行う。

(4)事業委員会

TIBF バーゲンの準備に入った。

(5)ホームページ委員会

冊子版ダイレクトリーの編集は順調に進んでいる。

2. その他

・規約改定委員会

会議の項目に“委員長会議”を追加した改定案を作成し、各理事の了承を得る。

2005年(平成17年)1月～12月の洋書輸入統計(後編)

荒 木 亮 一

印刷された用紙を綴じ合わせ表紙を付けて一冊にまとめた『本』は、幼児から高齢者まで全ての人にとって必要欠く可からざるものだと思う。教育、情報、楽しみのために人は『本』を読み、愛し、『本』によって育つ。因に、出版用語では表紙を「平」と呼ぶ。懐かしい響きだ。「背」の部分を除く3方の断ち口が「小口」で、上方の小口を「天」、下方を「地」、綴じ目の部分である「のど」の反対側を「前小口」または単に「小口」と呼ぶ。表(おもて)表紙を開くと「見返し」の“効き紙”と“遊び”があり、布または紙のものがある。和本の「見返し」には著者名・書名・発行所名などが表示され、装飾として絵画などが描かれたり、辞典には50音索引などがみられる。洋装本では、表・裏の表紙と本文との間に見開きで貼られた一枚の紙の半分が(遊び)になっていて、“Webster”の辞書を見ると、“Presented to ____ By ____ Date ____”となっている。

しかし、出版点数の増加に伴い、過去の情報の2次的利用や文献の整理のために場所をとらず収納、保存できる「マイクロフィルム」や「マイクロフィッシュ」が増加したが、今は映像も再現できる「CD-ROM」、複数の辞書・辞典を収録した「電子辞書」(多言語をシャベルものもある)、また教育の現場では「パソコン」などへとニーズが多様化してきた。次に掲げたデータが「マイクロフィルム」などと「CD-ROM」の推移を明確に示している。

4. マイクロフィルムの輸入通関統計

表4 1998～2005年の推移(単位 百万円)

品名	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	前年比	98:05
マイクロフィルム	528	421	431	443	413	357	239	202	85%	38%

☆マイクロフィルム(露光し、かつ、現像したものに限る)の輸入額は前年比で15%の減少で、最も輸入量が多かった1990年(¥780百万)と比較するとほぼ1/4である。2005年は次の8カ国からの輸入があった。輸入量が減ったので、米国は昨年につづき1位であるが、¥173百万と前年より14%減、一方構成比は86%と昨年を1%強上回っている。昨年4位のオラ

ンダが2位へ浮上、¥8百万で前年比30%の増加、構成比4.1%、昨年も3位の英国は¥7.6百万、構成比3.8%、とそれぞれ約33%、1%の減少。フランスは2位から4位になり、¥6.6百万、構成比3.3%と輸入額は前年の約半分、構成比は2.3%の減少であった。後にドイツ、台湾、中国、シンガポールの順となった。

5. "CD-ROM"の輸入通関統計

表5 1998年～2005年の推移(単位 百万円)

品名	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	前年比	99:05
CD-ROM (1)	27,565	38,283	47,584	53,252	44,424	39,231	37,078	34,397	93%	90%
CD-ROM (2)	～	5,552	9,948	13,078	16,073	17,836	23,263	28,766	124%	518%
計	27,565	43,835	57,532	66,330	60,497	57,067	60,341	63,163	105%	144%

☆昨年につづいてCD-ROM(2)の比率が7%ほど増加した。ここにまとめられている商品は「レーザー読み出し用のディスク」で、(1)類が「音声及び画像以外の記録の再生用のもの」、(2)類は「その他のもの(註:音声のみの再生用のものを除く)」と定義されているもので、マイクロフィルムやマイクロフィッシュなどに比べマーケットの広いことが容易に理解できる。また、書籍・雑誌と比較しても、2000年以降、ほぼ同率であった2003年を除いて、書籍・雑誌を上回る状況になった。2005年の書籍・雑誌:CD-ROMは44:56である。

(1)類を原産地順にみると、米国44%(¥15,202百万)とトップ、つづいてアイルランド14%、シンガポール12%、ドイツ6%、フランス4.5%、英国3%の順。その他イスラエル2.8%、カナダ2%などが目立っている。

(2)類では、台湾24%(¥6,864百万)がトップで、次点がシンガポールの23%、つづいて韓国19%、香港12%、米国10%であった。

2005年の(1)と(2)を原産地別にみると: 米国(84:16)、シンガポール(39:61)、台湾(9:91)、アイルランド(99:1)、香港(3:97)、韓国(6:

94)、ドイツ (68:32)、フランス (94:6) となっており、昨年同様に欧米からは (1) が多く、アジア圏からは (2) の比率が高いことが分かる。

その他、プエルトリコ、ナイジェリア、トルコ、地中海東部の島国キプロス、などからの輸入もあった。

6. その他の国からの輸入通関統計

表6 国別輸入通関額による順位表(単位 百万円)

国名	2005年1-12月の輸入額			2004年実績 書籍+雑誌	2005年 前年比	2004年 総合順位	2005年 総合順位
	書籍	新聞・雑誌	合計				
主要10ヶ国の合計	32,873	14,733	47,606	48,822	98%	(1~10)	(1~10) (表3-a参照)
ブラジル	175	291	466	422	110.4%	12	11
タイ	370	34	404	488	82.8%	11	12
台湾	245	22	267	263	101.5%	13	13
スイス	165	97	262	225	116.4%	15	14
マレーシア	197	0	197	215	91.6%	16	15
スペイン	146	5	151	238	63.4%	14	16
ベルギー	64	20	84	121	69.4%	19	17
オーストリア	1	81	82	82	100.0%	21	18
カナダ	61	17	78	85	91.8%	20	19
オーストラリア	46	26	72	81	88.9%	22	20
ロシア	54	2	56	35	160.0%	25	21
デンマーク	47	1	48	56	85.7%	23	22
*ブルガリア	41	0	41	0.3	13,666.7%	~	23
インド	30	4	34	39	87.2%	24	24
アイルランド	30	0	30	209	14.4%	17	25
スウェーデン	27	0	27	136	19.9%	18	26
ポーランド	24	3	27	23	117.4%	26	27
*リトアニア	10	0	10	0	~	~	28
*ハンガリー	8	0	8	2	400.0%	~	29
インドネシア	8	0	8	12	66.7%	29	30
小計 (1)	1,749	603	2,352	2,732.3	86.1%	~	~
その他の国々	145	17	162	107	151.4%	~	~
小計 (2)	1,894	620	2,514	2,839	88.5%	~	~
合計	34,767	15,353	50,120	51,661	97.0%	~	~

☆主要10カ国の輸入額合計の構成比は昨年同様95%。その他の国々では順位表が示すとおり若干の入れ代わりが認められた。注目すべきは：①ブルガリアからの輸入が急増したこと。何かが「琴欧州」の大関昇進に肖っているのかも知れない。②リトアニアからの輸入があり28位。"Lithuania"を簡単に紹介すると、バルト海沿岸に位置する共和国。古来琥珀の産地として有名。ポーランド領を経て18世紀にロシアに併合。1940年ソ連に併合、91年ソ連解体前に独立。住民はバルト系リトアニア人が主だと言う。面積65,200km²、人口約370万、首都はヴィリニウス。バルト海（帝政ロシアの主力、バルチック艦隊があった）、ポーランド、ベラルーシ、ラトビアに囲まれた小国で

ある。③ハンガリーが29位。ニューカレドニア、アラブ首長国連邦、イスラエルが順位落ちでそれぞれ37位、33位、34位であった。

7. 洋書関連品目輸入額統計

2005年1月~12月

表7 輸入額内訳表(単位 百万円)

品 目		2004 輸入額	2005 輸入額	前年比	1998 輸入額	過去7年間の 平均成長度
幼児用の絵本及び習字本		3,756	4,078	109%	2,183	187%
楽 譜		693	742	107%	818	91%
地図・ 海図 など	地球儀・天体儀	435	396	91%	112	354%
	製本したもの	69	63	91%	177	36%
	その他のもの	424	505	119%	416	121%
	小 計	928	964	104%	705	137%
葉書、印刷したカードなど		1,468	1,558	106%	1,276	122%
カレンダー	紙製又は板紙製	2,479	2,907	117%	1,944	150%
	その他のもの	173	151	87%	146	103%
	小 計	2,652	3,058	115%	2,090	146%
その他の 印刷物	広告・商業用カタログなど	6,716	8,316	124%	5,406	154%
	写真	2,411	2,282	95%	1,238	184%
	絵画・デザインなど	1,898	2,414	127%	3,077	78%
	その他のもの	17,644	16,705	95%	34,048	49%
	小 計	28,669	29,717	104%	43,769	68%
	郵便切手・収入印紙など	5,324	9,796	184%	415	2,360%
デカルコマニア		812	888	109%	937	95%
設 計 図		136	592	435%	331	179%
合 計		44,438	51,393	116%	52,524	98%

☆2003年までの5年間は、表に示した1998年に比べて輸入が低い水準で推移した。2004年になって、円高を考慮した推定前年比が20%強の伸び、と報告した。2005年は、為替変動の影響が小さかったので前年につづいて約15~16%の伸びがあったと考えられ、1998年の高い水準に近づいた。因に、「書籍+雑誌」の合計額の約91%相当額である。

「郵便切手・収入印紙など」は大きな伸びを示しているので注目したい。97%強がフランスからの輸入である。¥9,546百万に達した。次点が0.7%のフィリッピンから、0.6%が米国から、その他、アイルランド、英国、シンガポール、タイ、ネパール、キプロス、ケニヤ、ガーナなど、多数の国から輸入があった。内容的には、『郵便切手、収入印紙その他これらに類する物品（発行国【額面で流通する国を含む。】で通用するもので使用していないものに限る。）、これらを紙に印刷した物品、紙幣、銀行券及び小切手帳並びに株券、債券その他これらに類する有価証券』である。

8. 参考資料（輸出通関統計）～Ⅰ

表8 2005年1～12月輸出統計表(単位 百万円)

品 目		2004 輸出価格	2005 輸出価格	前年比	2005 構成比
書籍 及び それに 類する もの	単一シートのもの	530	470	89%	3%
	辞典及び事典	69	42	61%	0%
	その他のもの	10,670	9,806	92%	65%
	幼児用絵本	61	24	39%	0%
	小 計 (1)	11,330	10,342	91%	68%
楽譜 地図・海図		144	123	85%	1%
		58	48	83%	0%
	小 計 (2)	202	171	85%	1%
新聞・雑誌	週に4回以上発行するもの	14	13	93%	0%
	その他の定期刊行物	4,478	4,574	102%	30%
	小 計 (3)	4,492	4,587	102%	30%
合計 (1)+(3)		15,822	14,929	94%	99%
合計 (1)+(2)+(3)		16,024	15,100	94%	100%

☆輸出先をみてみよう。「単一シート」は36ヶ国へ：インドネシア21%、中国20%。「辞典」は20ヶ国へ：台湾29%、中国18%。「書籍類」は101ヶ国へ：米国39%、台湾9%、韓国8%、中国6%、香港5%。「絵本」は10ヶ国へ：カンボジア3%。「新聞・雑誌」（週4回以上）は6ヶ国へ：韓国64%。（その他の定期刊行物）は34ヶ国へ：台湾27%、米国17%、韓国16%、香港15%、であった。

9. 参考資料（輸出通関統計）～Ⅱ

表9 10年間の輸出通関額対照表(単位 百万円)

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1996	18,742	103%	100	4,742	97%	100	23,484	102%	100
1997	17,606	94%	94	4,818	102%	102	22,424	95%	95
1998	17,314	98%	92	4,511	94%	95	21,825	97%	93
1999	15,280	88%	82	4,528	100%	95	19,808	91%	84
2000	14,378	94%	77	4,404	97%	93	18,782	95%	80
2001	13,848	96%	74	4,302	98%	91	18,150	97%	77
2002	13,449	97%	72	4,311	100%	91	17,760	98%	76
2003	12,799	95%	68	4,283	99%	90	17,082	96%	73
2004	11,330	89%	60	4,492	105%	95	15,822	93%	67
2005	10,342	91%	55	4,587	102%	97	14,929	94%	64

☆指数が示すのはこの10年間で36%の減少（為替の変動は考慮せず）である。書籍・雑誌に関する限りでは1984～1985の急増後、1986年の円の高騰で大幅減少となり現在に至っている。日本企業の素晴らしい海外進出を考えると、やはり世界が英語中心の時代になったのだと改めて強く感じた。

10. 輸入：輸出の比率対照表

表10 書籍・雑誌の輸入対輸出の歴史(書籍類+雑誌類)

分類	1975	1985	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005
輸入	78%	45%	65%	73%	76%	76%	77%	77%	77%
輸出	22%	55%	35%	27%	24%	24%	23%	23%	23%

☆1960年代の大手米国出版社によるテキスト海外市場開拓のためのリプリント版や BJIE の輸出が拡大したのが1984年～1985年であった。

11. 為替相場の動向と輸入額への影響度

2005年1月～12月の洋書輸入

表11 為替相場の動向と影響

通貨	2002年の 年間平均 為替相場	2003年の 年間平均 為替相場	2004年の 年間平均 為替相場	2005年の 年間平均 為替相場	前年比 [(+)は円高 (-)は円安)	決済通貨の 推定使用率	2005年度の (vs. 2004) 推定影響度
US\$	¥125.34	¥115.99	¥108.67	¥110.21	-1.4%	71%	98.6%
Stg.£	¥187.99	¥189.41	¥199.16	¥200.27	-0.6%	2%	99.4%
EURO	¥118.14	¥131.02	¥134.98	¥132.92	1.5%	1%	101.5%
CAN\$	¥79.80	¥82.88	¥83.56	¥91.05	-8.0%	1%	91.8%
S.Fr.	¥80.54	¥86.21	¥87.48	¥88.43	-1.1%	1%	98.9%
Others	～	～	～	～	0.0%	1%	100.0%
Jpn.¥	～	～	～	～	0.0%	23%	100.0%
加重平均	¥118.36	¥121.10	¥122.77	¥124.58	-1.5%	100%	98.9%

☆円／米ドルは¥103から¥118台へ、英ポンドも¥194から¥207台へ、ユーロが¥135から¥140台へ、カナダドルは¥84から¥102台へと年末に向けて約4%～20%の円安であったが、試算による前年比でみた成長率に対する影響は小さかった。注：「公示相場全通貨中値月申平均」は『みずほ銀行』から提供していただいた。ご協力に深く感謝申し上げます。

12. 10年間の推定成長率一覧表

2005年1月～12月の洋書輸入

表12 推定成長率の推移

年	区分	書籍・雑誌輸入額の 前年比	主要通貨の為替相場加重 加重平均値前年比	円高／円安調整後の 推定成長率
1996		117.4%	-14.1%	3.3%
1997		109.0%	-8.0%	1.0%
1998		101.0%	-6.1%	-5.1%
1999		90.6%	14.0%	5.5%
2000		101.1%	13.5%	14.6%
2001		117.4%	-9.4%	7.9%
2002		97.9%	-6.4%	2.6%
2003		100.4%	-2.3%	-5.5%
2004		90.1%	-1.4%	-4.6%
2005		97.0%	-1.5%	-1.1%

☆ここにまとめた各種の統計表が、将来へ向けて役に立つヒントを提供しているとすれば大きな喜びである。
(おわり)

(1) 始めに

此の度、会報委員会の乗原委員長から会報記事の投稿依頼があり、及ばずながらそのお役目を引き受けることになりました。“洋書業界の若者を元気づけられる記事を”とのご要望に果たして応え得るか疑念を抱きながら、昨年小冊子に纏めました拙書で言及に至らなかった事柄等を想起の上筆を進めることに致します。

昨今、協会は洋書の輸入販売事業に関連する諸企業を幅広く会員に迎えて居りますが、大半の協会加盟会員は洋書の販売流通を事業の中心に据えて居り、各社が取り扱う外国書籍は、日常流通する一般消費財と比べますと極めて特殊な商品として位置付けられます。

世界主要国に於ける出版社の年間刊行点数で日本は有数の出版大国とされて居り、内国書の年間出版点数は優に70,000点を超えております。

翻って、国内での外国書の流通規模を英国書に例をとりますと、日本が輸入する年間総量は米国に次いで2番目の位置を占めております。世界の出版界が刊行する夥しい数の出版物をジャンル別に商品分類しますと、その分野は1000種類に及ぶことからして各タイトルの潜在購買層は官、公、私の大学専門図書館は言うに及ばず、人文、社会科学、理工医学分野で活躍する個人、外国語を学ぶ学生、その他多くの美術、工芸分野の専門家等を含め多岐に互る購買者層が洋書店の市場対象となって居ります。

これら輸入外国書の販売に当る書店は、世界に散在する版元が発信する新刊書情報の中から国内で需要度の高い書籍、文献、その他データ資料をいち早く精査した上で、適切な購買先を選別の上積極的な販売促進活動に専念することで、事業成果に結びつけて居ります。

従って、書店の最重要課題は数千を越す海外版元の出版情報の収集能力と、広域な分野で活動する潜在購入者の補促にあり、この世界に精通した経験豊かなスタッフが名人芸的役割を果たして居り、これが一面国内の大手貿易業者の業界への参入を排し安定した各社の事業実績を保管して今日に至っております。

然るに1950年代以後半世紀を経て、今日急速にその機能を発揮するITを活用した情報の受発信と活用手段の多様化に加え、進出著しいネット書店の流通チャネルへの参入は、外国書籍の購入先である各種図書

館で進行する資料収集の集約化、厳しい収納資料の選別、そして購入必要資料の入手方法の多様化等の現象と相俟って、嘗て洋書流通の世界で書店が恒常的に運用した機能を以ってしては対応し得ない事態が齎られて居り、惹いては昨今の協会加盟各社の業績にマイナスの要因として迫って居るのが現状の様に思われます。

業界内には冊子体での情報資料から離れ電子媒体資料を事業の中心に据え、情報のプロヴァイダーとしての業務に傾注して好調な企業が存在しますが、書籍の外販/店頭販売を専業とする書店にとっては市場を覆うこれ等趨勢の変化に対応する新たな戦略の策定が求められて居ります。

1990年代の日本経済の不況を回顧しますと、それが“失われた10年”であったと多くのエコノミストが論評しておりますが、実は2001年以後の“日はまた昇る”に表徴される諸経済指標の明らかな改善傾向には、国の目指した産業経済構造の変革と相俟った企業経営者のグローバルな視点で将来を見据えた事業基盤再構築への英断と目的達成への弛まない努力があったことがその背景に在る事を疑う余地はありません。

私はこの紙面を通して業界各位に、今日対応すべき施策に言及する充分な知恵を残念ながら持ち合わせて居りませんが、仮に業界各位が外国書の小売、外販活動を今後も事業の中心に据える場合、検討を要すると思われる諸点は、(1)設定する小売価に含まれるマーク・アップを零とし、経営の収支バランスを支え得る採算分岐点を算出の上、然るべき対応策の検討。(2)経験豊かな人材の専門職への配置は不可欠な要件とは謂え、経営総費用中に占める人件費割合の精査を含め、現行の業務内容とその実質的効果の再点検。(3)洋書関連事業で展開可能な分野への新たな挑戦。(4)同業社間での合併、連合、若しくは事業部門単位での機能の統合乃至合同の可能性模索。(5)国内の広範な領域で活動するマスメディアとIT関連機能をより積極約に活用し、単体としての各企業が、或いは協会として外国書全般に互る啓蒙、広報活動の模索。——等があげられます。

以後6回に互る連載記事では、私が嘗て知己を得た出版人との出逢いと交友録等を廻る体験談を紹介させて頂き、役目を果たさせて頂きます。

190 年の歴史を誇る医学雑誌の世界的権威



The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE



本誌は193年の歴史をもつ、世界で高く評価されているアメリカの医学雑誌である。毎週最新の研究論文を発表する一方で、急を要する重要な情報についてはWeb上で先行発表もしている。その絶大なる影響力は多方面にわたり、全世界で約20万人に購読されている。

「日本国内版」には目次、主要論文のアブストラクト、主要記事を簡潔にまとめた **This Week in the Journal** が日本語で掲載され、多忙な医師の情報チェックに役立っている。

● 2006 年 (Vol.354-355) 年間購読価 週刊 [木曜日]

- ・個人 34,650 円 [本体 33,000 円 + 税 5%]
- ・団体 99,750 円 [本体 95,000 円 + 税 5%]
- ・レジデント 23,100 円 [本体 22,000 円 + 税 5%]
- ・学生 21,000 円 [本体 20,000 円 + 税 5%]

※レジデント・学生でのお申込みには 証明書 が必要です

● 専用バインダー < 1 年分: 2 部 >

7,980 円 [本体 7,600 円 + 税 5%]

JOURNAL WATCH

- 年 24 回 (月 2 回) 発行
- 8 ページのコンパクトなニュースレター
- NEJM, JAMA, Lancet, Ann Intern Med, BMJ をはじめとする約 50 の主要医学雑誌から、毎月 55 ~ 60 論文を要約
- 要約には原論文の出典が明記
- 重要情報は適宜特別記事として掲載
- オンラインは週 2 回更新 (購読者のみフルアクセスが可能)

● 2006 年 (Vol.26) 年間購読価 月 2 回発行

- ・個人 27,300 円 [本体 26,000 円 + 税 5%]
- ・団体 44,100 円 [本体 42,000 円 + 税 5%]
- ・レジデント・学生 13,650 円 [本体 13,000 円 + 税 5%]

※レジデント・学生でのお申込みには 証明書 が必要です

● 専用バインダー < 1 年分 >

4,200 円 [本体 4,000 円 + 税 5%]

The New England Journal of Medicine の発行元 Massachusetts Medical Society が発行するサマリー集



日本総代理店 南江堂洋書部 www.nankodo.co.jp

〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 TEL: 03-3811-9950 FAX: 03-3811-5031

E-mail: nkdyosho@nankodo.co.jp